

総合評価

受診施設名	ワーキングセンターいづみ	施設種別	多機能型障害福祉サービス事業 (旧体系：知的障害者通所授産施設)
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

平成 20 年 2 月 25 日

<p style="text-align: center;">総 評</p>	<p>貴法人は法人格取得以前から、「いづみは困った時に相談できる依り処」と地域の障害のある人や家族から期待され、地元関係者の支援も得て、事業を推進してきました。「地域社会で普通の暮らし」「地域とのかかわりを大切に」「障害福祉向上の総合的な拠点として役割を果たす」という理念を掲げ、「知的障害者通所授産所」を障害者自立支援法の「多機能型障害福祉サービス事業」に移行させ、理念・基本方針に基づいて地域に根ざした総合的な在宅支援事業の具体化に向け、着実かつ精力的に事業展開を図ってきています。</p> <p>一方、流動的な障害福祉制度への取り組みに加え、貴事業所にとっては木津川市への町村合併による新たな課題が加わり、地元自治体と施策の調整を図りつつ、事業所内に経営・人事面の検討委員会を設け、中・長期計画策定に向け組織全体として取り組みを進めています。</p> <p>理念の中にもある地域との関わりは、学校、多様なボランティアとの交流、地元スーパーでの店舗確保、保育所への給食パン販売活動と、地域の多様な場面に渡り事業を具体化させています。</p> <p>利用者のエンパワメントを高める実践への取り組みについては、法人化前から「社会生活能力プログラム」を実践し、事業所評議委員に利用者代表2名が参画する等、利用者の意見を反映させる機会を保障し、利用者本位の福祉サービスの提供に尽力されています。</p>
<p style="text-align: center;">特に良かった点 (※)</p>	<p>II - 1 経営状況の把握</p> <p>「経営」「事業」2部門からなる「経営委員会」を設置し、経営面や中・長期計画策定のための分析・検討をチームで取組んでいる。他に役職別の職員連絡会・職員会議等を定期的の実施し、職員参加・情報の周知に努め、サービス面、経理面をそれぞれ評価・検討するアドバイザーを導入し、経営環境の変化に即応したマネジメントに努力されている。</p> <p>II - 4 地域との交流と連携</p> <p>経営理念にも示されているように、長年、南部山城地域の障害者福祉の総合的な拠点としての役割を果たす努力をされている。地域との関係も、特に団塊世代の男性を中心に構成されたボランティア団体との関係は緊密で、施設営繕面、各作業の技術面等で支援を得るなど、貴重な人的資源となっている。活動歴も長く、利用者との安定した交流・信頼関係が築かれている。</p> <p>III - 2 サービスの質の確保</p> <p>作業製品である「手作り製品」の完成度は高く、染め・手織り・刺し子・縫製等の作業工程が利用者の意向や、適材的な配置に配慮がなされており、利用者が各自の役割に自信と誇りをもって作業されている姿は印象的である。染め材は施設周辺の草木の採取から始まり、柿渋を利用する等、配色・製品の種類も豊富で、仕上がりも丁寧に作業されている。</p>

<p>特に改善が 望まれる点 (※)</p>	<p>Ⅱ－２ 人材の確保・養成</p> <ul style="list-style-type: none">・人事考課制度導入について理事長は「職員の意欲につながるものに」と認識され、現在検討中である。職員にとっても関心が高いことであり、職員との共同、合意に基づいて、管理者・現場職員双方の意欲向上並びに、サービスの質の向上につながる制度構築を期待したい。・職員研修については、職員ごとの課題や目標と連動させた研修計画の確立と実施を勧め、これらの人事政策を中・長期計画に明示されることが求められる。 <p>Ⅱ－３ 安全管理</p> <p>現在事故報告に留まっている点について、事故の未然防止のためリスクの洗い出しをされ、職員間の情報の共有化を図り、処理経過や対応については広報や、ホームページに掲載してみるなど、取り組みの公開も含め検討を期待する。</p> <p>記録・マニュアル類の整備</p> <p>課題解決や、制度構築はプロセスこそ大事であり、その記録は将来への財産にもなるので、今後記録の徹底と、情報の共有化のためのマニュアル類の作成や整備を期待したい。</p>
--------------------------------	---

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【共通評価基準】

評価結果対比シート

受診施設名	ワーキングセンターいづみ
施設種別	多機能型障害福祉サービス事業
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2008年1月30日

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立されている。	① 理念が明文化されている。	A	A
		② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	C	B
	I-1-(2) 理念、基本方針が周知されている。	① 理念や基本方針が職員に周知されている。	A	A
		② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。	C	C
		② 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	C	C
	I-2-(2) 計画が適切に策定されている。	① 計画の策定が組織的に行われている。	C	B
		② 計画が職員や利用者等に周知されている。	C	B
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	B	B
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	B	B
	I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	A	A

[自由記述欄]

I-1	<ul style="list-style-type: none"> ・理念は、パンフレットにはわかりやすく記載され、事業所内にも掲示されていた。 ・「基本方針は明文化されていない」については、理念に基づいた利用者に対する姿勢や、事業に対する基本的な考え方、具体的な機能が明文化されている文書が作成されている。内容については、今後更に状況変化に合わせ充実したものの作成が望まれる。
I-2	法人として、課題意識を持ち「経営委員会」を設置するなどの取り組みが始まっている。事業所、利用者、職員の将来が展望できるサービス、組織体制、人材育成等の計画策定を関係者の総意でまとめ上げられることを期待したい。
I-3	管理者は「ひと・もの・かね」の「ひと」の育成を重視しており、職務基準表の作成、人事評価制度構築等の取り組みを行っている。これらの制度は、日常的に利用者や職員と共に過ごす中で培った目線と、それに裏付けされたリーダーシップのもとで構築されるものである。現場を熟知した管理者のもと、サービスの質の向上、職員の意欲向上につながる制度の構築を期待する。

II 組織の運営管理

【共通評価基準 評価結果対比シート】

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A
		② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	A	A
		③ 外部監査が実施されている。	A	A
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	B	B
		② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	C	C
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	A
		② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	A	A
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	B
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	B	B
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	C	B
	II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	B	B
② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。		B	B	
II-3 安全管理	II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。	① 緊急時(事故、感染症の発生時など)の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	A	A
		② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	B	B
II-4 地域との交流と連携	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	C	B
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	C	B
		② 関係機関等との連携が適切に行われている。	A	A
	II-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。	① 地域の福祉ニーズを把握している。	A	A
② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。		A	A	

【自由記述欄】				
II-1	<p>・経営環境把握や経営分析については「経営委員会」を設置し、経営部門、事業部門に関して積極的に経営マネジメントを実施している。また、主任以上の職員の連絡会議や職員会議等において、職員の参画と、決定した方針についての周知徹底が図られている。今後は委員会にて検討した事業改善提起を、策定過程の中・長期計画に反映していく取り組みが期待される。</p>			
II-2	<p>・管理者が「人材の確保・養成は、事業所運営の根幹」との意識を強くもっており、「人事制度検討委員会」の役割は期待される。 ・「業務目標シート」、「職務規準表」において、職員それぞれが職務に関する態度、技能、知識等についての組織からの期待度を把握でき、目標設定や自己評価がしやすい仕組みがある。今後、職員全体に対する公開性・公平性を明示しつつ、職員の意欲向上及び利用者満足の上につなげることを目標に、更なる「人事政策確立」・「人材の確保・養成」への努力が期待される。 ・管理職の意欲の高さが各部署の管理的職員をはじめ現場の職員に引き継がれ、そのことが職員の意欲の高さや、利用者との信頼関係の強さに現れているよう見受けられた。 ・職員の教育・研修に関する基本姿勢については、検討中の結果が基本方針や中・長期計画に記されることを期待する。</p>			
II-3	<p>・安全管理に関しては、指揮系統や管理者の位置が明確にされている。今後、緊急時対応策および未然防止について、事例による洗い出しやマニュアル整備をさらに進めていく必要がある。</p>			
II-4	<p>・法人化前から地域との関わりを大切にしてきた経緯のなかで、法人化してからは更に地域ニーズに応える機能を備えて複合的な事業展開をし、経営理念のとおり、常に南部山城地域の障害者福祉向上の総合的な拠点としての役割を果たす努力がなされている。 ・地域の団塊世代の男性を中心に構成されたボランティア団体との関係が密接で、ボランティアと利用者との関係も強い。相互に良い影響を与え合うこのような地域住民との関係は、福祉施設の本来あるべき姿であり、長きにわたる地域に根ざした活動展開の成果だと見受けられる。今後も、地域の学校教育に必要な体験学習の場として等、開かれた施設づくりを続けていかれることを期待する。</p>			

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	A	A	
		② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A	
	Ⅲ-1-(2) 利用者満足の向上に努めている。	① 利用者満足の向上に意図した仕組みを整備している。	B	B	
		② 利用者満足の向上に向けた取り組みを行っている。	C	B	
	Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	B	B	
		② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	B	
		③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A	
	Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	A	A
			② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	A	A
③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。			A	A	
Ⅲ-2-(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。		① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	C	B	
		② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	A	A	
Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。		① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	A	A	
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	A	
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A	
Ⅲ-3 サービスの開始・継続		Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	A	A
	② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。		A	A	
	Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	① 事業所の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	B	B	
Ⅲ-4 サービス実施計画の策定	Ⅲ-4-(1) 利用者のアセスメントが行われている。	① 定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	A	A	
		② 利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	A	A	
	Ⅲ-4-(2) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。	① サービス実施計画を適切に策定している。	A	A	
		② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	A	A	

【自由記述欄】

Ⅲ-1	<ul style="list-style-type: none"> 理念には利用者を尊重する姿勢が明記され、長年の経過の中で職員にも浸透し、実践に活かされている。 プライバシー保護についての規定があり、ハード面、ソフト面共に工夫されている。 家族会の役員会が月1回、総会が年に2、3回開かれ、その意見をサービスに反映している。 評議員会への利用者の出席や月1回の利用者会議など、利用者が意見を言いやすい環境にあり、苦情は迅速に解決し、サービスに反映している。 苦情解決窓口や第三者委員の設置などは重要事項説明書に明記されているが、実際に相談や苦情があった場合、当事者へのフィードバックのみで公開はされていない。経過や解決方法を掲示したり、ホームページで公開することで、より風通しの良い組織へ向かうことが期待される。
Ⅲ-2	<ul style="list-style-type: none"> サービスの質の向上のため、専門職の外部評価を受けている。 日常のサービスを提供するに当たり、共通の手順を明らかにしておくことは、サービスの質を標準化するために必要である。個々のサービスについて、標準的なマニュアルの作成が必要である。
Ⅲ-3	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすい文面の重要事項説明書や利用契約書で、サービス開始時に家族や利用者に説明が行われている。今後は文字が読みづらい利用者にも理解しやすいよう、ルビを付けたり絵や写真を挿入するなど、更なる工夫が望まれる。 ホームページやパンフレットなどで、施設の情報が公開されている。
Ⅲ-4	<ul style="list-style-type: none"> 詳しいアセスメントを行い、個別支援計画では一人ひとりの細かいニーズをくみ取り、現場職員と共に対応している。 利用者の様子は毎日記録に残し、翌朝関係職員が目を通してからサービス提供に当たることで、連携と継続したサービスの質を保っている。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【付加基準】 評価結果対比シート

障害者児施設

受診施設名	ワーキングセンターいづみ
施設種別	多機能型障害福祉サービス事業
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2008年1月30日

【付加基準】障害者・児施設版 評価結果対比シート

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A-1 利用者の尊重	(1)利用者の尊重	① コミュニケーション手段を確保するための支援や工夫がなされている	A	A
		② 利用者の主体的な活動を尊重している	A	A
		③ 利用者の自力で行う日常生活上の行為に対する見守りと支援の体制が整備されている	A	A
		④ 利用者のエンパワメントの理念にもとづくプログラムがある	A	A

【自由記述欄】

A-1-(1)①	名札、支援計画、旅行しおり等、日常的に利用者に関わる文書には、かな・ルビをふる等の工夫がなされている。しかし、重要事項説明書や、契約書については特段に配慮はなされていない。利用者に内容の理解や周知を促すためにも、利用者の意見を聞き工夫していくことが重要である。
A-1-(1)②	月に1回、利用者会議が開催されている。「みんなで意見を交わす場」との利用者の理解があり、情報交換や、話し合いがなされている。これらの場に出てきた意見については、2人の利用者代表が法人評議委員として発言する機会が設けられている。また事業計画策定前の利用者アンケートで、ウォーキングの時間を設けて欲しいとの要望があり、計画に反映されている。
A-1-(1)③④	法人化前から社会生活能力プログラムを設け、調理、宿泊実習等利用者の意向を確かめ、2人から3人のチームで実習を重ねる実践がなされている。

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A-2 日常生活支援	(1)食事	① サービス実施計画に基づいた食事サービスが用意されている	A	A
		② 食事は利用者の嗜好を考慮した献立を基本として美味しく、楽しく食べられるように工夫されている	A	A
		③ 喫食環境(食事時間を含む)に配慮している	A	A
	(2)入浴	① 入浴は、利用者の障害程度や介助方法など個人的事情に配慮している		
		② 入浴は、利用者の希望に沿って行われている		
		③ 浴室・脱衣場等の環境は適切である		
	(3)排泄	① 排泄介助は快適に行われている	A	A
		② トイレは清潔で快適である	A	A
	(4)衣服	① 利用者の個性や好みを尊重し、衣服の選択について支援している	A	A
		② 衣類の着替え時の支援や汚れに気づいたときの対応は適切である	A	A
	(5)理容・美容	① 利用者の個性や好みを尊重し、選択について支援している	A	A
		② 理髪店や美容院の利用について配慮している		
	(6)睡眠	① 安眠できるように配慮している		

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A-2 日常生活支援	(7)健康管理	① 日常の健康管理は適切である	A	A
		② 必要な時、迅速かつ適切な医療が受けられる	A	A
		③ 内服薬・外用薬等の扱いは確実に行われている	A	A
	(8)余暇・レクリエーション	① 余暇・レクリエーションは、利用者の希望に沿って行われている	A	A
	(9)外出、外泊	① 外出は利用者の希望に応じて行われている	A	A
		② 外泊は利用者の希望に応じるよう配慮されている		
	(10)所持金・預かり金の管理等	① 預かり金について、適切な管理体制が作られている		
		② 新聞・雑誌の購読やテレビ等は利用者の意思や希望に沿って利用できる		
		③ 嗜好品(酒、たばこ等)については、健康上の影響等に留意した上で、利用者の意志や希望が尊重されている	A	A

[自由記述欄]

A-2-(1)	複数の利用者から直接、またアンケートで8割が、食事について美味しいと回答している。献立表にはカロリーが表記されている。調理者は味付け、料理の適温等に注意を払っている。食堂は明るく、利用者は自由な席で食し、自分のペース、または必要がある利用者には支援がなされている。昼食時、昼食後ともに、職員と利用者の交流とくつろぎの雰囲気が見受けられた。
A-2-(3)	車椅子用トイレ内に、清掃用具等が置かれていた。収納等の配慮が必要である。
A-2-(7)	近隣病院の精神科医師を嘱託医として契約し、必要に応じ受診・相談している。 服薬は個別の保管・管理をし、服用は見守りしている。
A-2-(8)	翌月の月間予定、地域イベント、作業班からの発表、言いたいこと等、情報提供の時間を設けている。旅行の行き先も、ここで決められている。大変和やかな雰囲気、自由に行われている。
A-2-(10)③	お酒は旅行時の宴会で飲む機会がある。普段飲み慣れていないため、家族にも訊ね対応している。 タバコは所定の場所で許可されている。